

国語国文学会だより



No. 41

2009. 9

日本文学科卒業生の会

国語国文学会

春の総会・研究発表会報告

平成二十一年度春の総会・研究発表会を五月二十八日(木) 百年館五〇六教室にて開催しました。

◆第一部 総会

(1) 国語国文学会会長挨拶

谷中信一先生

(2) 奨学金授与

日本女子大学日本文学科賞(奨励賞)

学部四年次 大川智子氏

豊福めぐみ氏

安井絢子氏

院博士課程前期二年次

パリンヤボン・ドウシター氏

上村悦子奨学金

院博士課程前期二年次 横田亜朱紗氏

(3) 院博士課程後期二年次 グプタ・スウィーティ氏

(4) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介

(学生会の会・卒業生の会)

(5) 平成二十一年度活動・決算報告

(6) 平成二十一年度活動計画案・予算案・監査選出

(4)(5)については、学生、卒業生より各々報告説明を行い、各案件とも審議後承認

(6) 自主ゼミ発足(学生の会・卒業生の会)、承認

◆第二部 活動報告と研究発表

交換留学生紹介及び挨拶

学部四年 エリザベース・キャンツ、ティアン・シ

エール(ウエルズリー・カレッジ)
パク・ジユヒョン(梨花女子大学)

秋季大会・公開講演会のご案内

▼日時 平成二十一年十二月五日(土)

十三時半～十六時

▼場所 百年館低層棟五〇六教室(予定)

▼公開講演会

詩がうまれるとき

工藤直子氏

☆講師略歴

工藤直子(くどう なおこ)

一九三五年生まれ。お茶の水女子大学中国文学科卒業。詩人、童話作家。博報堂のコピーライターを経て、フリーに。一九八三年『てつがく』のライオンで日本児童文学者協会新人賞、八五年『ともだちは海のにおい』でサンケイ児童出版文化賞を受賞。二〇〇八年『のはらうたV』で野間児童文芸賞受賞。詩集・翻訳作品等多数。

▼講演

「中国はいかにして中国になったか？」

本学教授 谷中信一先生

▼懇親会

講演会終了後、ウィミンにて(予定)

会費三千円(学生千五百円)(予定)

*研究発表会

五日 十時～十二時

発表者募集

詳細は四面参照

▼報告

活動報告

・「漢文自主ゼミ活動報告」 塩川紗代氏

・「古代中世文化論ないし芸術論ゼミ活動報告」 児玉久美子氏

▼研究発表

・「『讃岐典侍日記』―執筆意図とその背景について―」 武藤菜海氏（本学大学院博士課程前期一年）

・「三島由紀夫初期作品の意味―観念的世界の姿容―」 田代あゆ氏（本学大学院博士課程前期一年、平成二十年度日本文学科学賞受賞）

平成二十年度卒業生の会活動報告

(1) 総務

・回生委員会・常任委員会の招集
・春季大会・研究発表会の開催 五月二十九日

(木)

(2) 企画

・自主ゼミの活動
平安文学談話会・皇女研究会・古代中世文化論ないし芸術論

・文学散歩 十月十八日（土）三鷹周辺散策
・秋季大会の開催 十一月二十九日（土）

研究発表会・総会・講演会・懇親会

(3) 会計

・会費納入の確認
・収支・運営・備品の完備など
・名簿作成・発送（十一月）

(4) 編集

・「国語国文学会だより」の発行

三十八号（秋の大会報告号 五月）

三十九号（春の大会報告号 九月）

・はがき通信 五月（春の総会案内）
・はがき通信 十一月（秋季大会案内）

平成二十一年度卒業生の会活動計画

(1) 総務

・春季総会・研究発表会の開催 五月二十八日（木）

(2) 企画

・自主ゼミの設立
平安文学談話会（古筆を読む）暫く休会
皇女研究会（国史を読む）

古代中世文化論ないし芸術論

・秋季大会の開催

研究発表会・総会・講演会・懇親会

(3) 会計

・会費納入への協力依頼
・活動充実のための備品の整備・購入

(4) 編集

・「国語国文学会だより」の発行
秋の大会報告号 四十号（五月）

日本女子大学国語国文学会・卒業生の会 平成20年度決算案（平成21.5.28）			
【収入の部】（単位：円）			
項目	予算	決算	増減
前年度繰越金	319,314	320,264	950
会費	550,000	563,468	13,468
利子	0	370	370
寄付	0	14,000	14,000
計	869,314	898,102	28,788
【支出の部】			
通信費	300,000	326,460	26,460
文具費	3,000	5,903	2,903
コピー代	8,000	2,500	△5,500
会報印刷費	80,000	102,700	22,700
名簿作成費	150,000	205,750	55,750
委員会活動費	61,000	44,380	△16,620
・委員会費	(10,000)	(9,380)	(△620)
・交通費	(36,000)	(34,000)	(△2,000)
・行事費	(15,000)	(0)	(△15,000)
ゼミ費	30,000	30,000	0
秋季大会費用	100,000	76,309	△23,691
慶弔費	5,000	0	△5,000
パソコン関係諸費	50,000	60,440	10,440
予備費	82,314	0	△82,314
計	869,314	854,442	△14,872
21年度へ			43,660
上記の通り決算報告致します。			
会計 津田 英子 斎藤 雅代			
監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。			
監査 斎藤 令子 児玉久美子			

※原本同一で押印済み

春の大会報告／秋の大会案内号（九月）

・はがき通信 十一月

平成二十一年度常任委員

総務 立川和子（新1） 関根緑（44）

岩切匡子（新4） 金石教子（新12）

藤木直実（院31）

企画 永井幸子（新1） 丸茂敬子（新16）

平山静（新34）

会計 津田英子（新6） 斉藤雅代（新19）

編集 遠間倫世（新54） 鈴木ちよ（新56）

本年度の会計監査は児玉久美子さん（旧46）、
斉藤令子さん（新6）です。

平成二十一年度研究サークル

*皇女研究会（皇女総覧平安朝篇の作成）

不定期 土曜日 午前十時半

大学図書館共同研究室

・柳澤理恵子 Ⅷ〇四五（八四二）六五二五

*古代中世文化論ないし芸術論

毎月第四木曜日 午後一時半～三時半

桜楓会館新館

・児玉久美子 Ⅷ〇四四（八一四）〇七五二

○『国文目白』第四十八号ができました。ご希望の方
は葉書で左記までお申し込みください。

〒一一二・八六八一 文京区目白台二・八一

日本女子大学日本文学研究室『国文目白』係

代金は、冊子到着後に払い込んでください。

（送料別 八百円）

日本女子大学国語国文学会 ・卒業生の会 平成21年度予算案 (平成21.5.28)	
【収入の部】 (単位:円)	
項 目	予 算
前年度繰越金	43,660
会 費	510,000
計	553,660
【支出の部】	
項 目	予 算
通信費	230,000
文具費	3,000
コピー代	10,000
会報印刷費	80,000
名簿作成費	30,000
委員会活動費	39,000
・委員会費	(6,000)
・交通費	(28,000)
・行事費	(5,000)
ゼミ費	20,000
秋季大会費	80,000
慶弔費	3,000
パソコン関係諸費	50,000
予備費	8,660
計	553,660

国文目白第四十八号

「義訓」と「戯書」の逕庭―人麻呂の「義訓」と「有
意の仮名」―

八木京子

小林秀雄『近代絵画』論―「下ガ」の成立をめぐつ
て―

鈴木美穂

「黄葉」と「紅葉」―上代から平安へ、表記移行の
要因に関する一試論―

森田直美

『紫式部集』伝本の比較―表現にみられる相違―

曾和由記子

『水無瀬殿恋十五首歌合』の恋歌―新古今期恋歌の
歌題変遷から考える―

吉田未来

宮沢賢治『マリヴロンと少女』論―少女像とアフリ
カをめぐる内村鑑三の影響―

深見美希

平林たい子『かういふ女』に見る人間表象の転換―
「私」の多面性―

グプタ スウィーティ

「卒塔婆小町」にみる『俗悪』

浅川史

大江健三郎『他人の足』論―「僕」の「意識」をめ
ぐつて―

鈴木恵美

享保期浄瑠璃本の仮名文字遣い―『出世握虎稚物語』
における「り」「し」「じ」の調査から―

佐藤麻衣子

『源氏物語』の本文と英訳の感情表現の比較につい
て―「哀」の表現を中心に―

長谷川ゆかり

無阿克セント地域における産出と知覚―福島県郡山
市の世代別調査から―

吉田千尋

表記による意味の独立―語幹がカタカナ表記される
動詞の傾向―

生熊愛

話し言葉の受身文と書き言葉の受身文 横田亜朱紗
〔書評・紹介〕〔寄贈図書紹介〕〔兼報〕

研究室だより

○今年度、江田すみれ先生（日本語教育学）が、国
内研修に出られました。

○昨年度、国内研修に出ていらしたつた平館英子
先生（上代文学）が御帰任になりました。

○他の先生方は昨年と変わりありません。

平館英子先生（上代文学）

高野晴代先生（中古文学）

石井倫子先生（中世文学）

児玉竜一先生（近世文学）

源五郎先生（近代文学）

倉田宏子先生（近代文学）

坂本清恵先生（日本語学）

清水康行先生（日本語学）

谷中信一先生（中国思想史）

田中功先生（図書館学）

田辺和子先生（留学生教育）

○助教の八木京子さんが退職され、後任に鈴木美穂さんが着任されました。

○研究室には、助手の白石美鈴さんと助教の鈴木美穂さんが常勤で詰めていらつしやいます。

○非常勤助手は、昨年度後期よりの宮本由規子さんに加え、今年度より新たに鴨川都美さんに御願いしています。

○毎夏の恒例となった「国語科教員の会」が、八月一日（土）に開かれ、午前の部では、本学科出身で中学・高校の国語科教師の諸先生による近況報告と本学への御要望を伺う懇談会、午後の部では、教職志望の在学生も多数参加し、麻生和子先生（新二十四回生、院十四回生、東京家政大学附属女子高等学校教諭）による教育活動報告「書くことで自己実現」と、それを受けての活発な質疑応答が行なわれました。

○本年九月二十六日には、二期八年学長職をお勤めになり昨年度末を以てご退職された後藤祥子先生に

お願いして、大学院日本文学専攻並びに国語国文学会の主催による特別講演会を開催する運びとなりました。午後三時から四時半まで成瀬記念講堂において後藤先生による「王朝文学のなぞ解き」と題するご講演を、夕方の五時から七時まで桜楓会館二号館三階ホールにおいて「後藤先生を囲む会」と銘打って懇親会を開催致します。

○国語国文学会の本年度の担当は、倉田先生、高野先生と鴨川さんです。

▼文学散歩

皇居の秋を楽しみながら美術館めぐりをしてみませんか。

コース 皇居東御苑内、尚蔵館↓出光美術館↓昼食↓解散

尚蔵館 「御成婚五〇年御即位二〇年記念特別展」出光美術館 「芭蕉〈奥の細道〉からの贈りもの」

・日時 十月十五日（木）午前十時～

・集合場所 皇居大手町（地下鉄大手町駅C10出口が便利）

・費用 昼食代・入場料ほか約五千元

・申込み・連絡先 永井幸子（新1）

・電話・FAX 〇三（五九七〇）二〇四一

・締切り 十月十四日（水）連絡は十八時以降に

◆研究発表会 発表者募集

・日 時 平成二十一年十二月五日（土）

・発表時間 三十分、質疑応答十分（予定）

・応募資格 本学国語国文学会の会員であること

・応募方法 論題に四百字以内の発表要旨を添えて文書で申し込むこと

・応募先 日本文学科研究室内「国語国文学会

秋季大会研究発表者募集係」宛

・締切り 平成二十一年九月二十四日（木）

・選考方法 国語国文学会において選考を行い、選考結果は後日、個別に通知いたします。

○会計より

振替用紙を同封いたしました。本年度会費千円の納入を十一月末日までお願いいたします。

二〇〇九年九月一日

発行・日本女子大学日本文学科

国語国文学会卒業生の会

〒一一二八六八一 東京都文京区目白台二・一八・一

日本女子大学 日本文学科内